

はしかわ市長の **だいすき!くさつ**



交通事故のない住み良いまちに

この冬は、全国的にも厳しい寒さが続きましたが、ようやくという方も多いのではないのでしょうか。特に自転車は小回りが利きますし、私たちにとって身近な乗り物で、小さなお子様から高齢者まで幅広い年齢層の方が気軽に利用できます。

また、目的地に移動しながら、適度な運動をすることができ、そのため、「健康増進効果」が期待されます。

さらに、自動車と違い二酸化炭素の排出がなく、「環境に優しい」乗り物のため、年々深刻化する地球温暖化対策にも繋がります。

このように、自転車を利用することで、さまざまなメリットもありますが、一方で、誰もが自転車事故の加害者や被害者になる可能性があり、草津市での交通事故のうち、自転車事故が3割以上を占めています。今月の特集では、交通安全の

取組を紹介しています。市では、中学校の生徒会や地元交通ボランティアとも協力しながら交通安全指導を行っており、出前形式で交通安全講座を実施するなど、交通事故のない安全で安心なまちづくりに取り組んでいます。

また、昨年には「自転車安全利用五則」が15年ぶりに改正されています。これは、自転車に乗るときに守るべきルールのうち、特に重要なものを取り上げているもの(詳しくは6ページをご覧ください)で、この4月からは、改正道路交通法の施行に伴い、全ての自転車利用者に対して、ヘルメット着用が努力義務になります。

警察庁によりますと、自転車乗車中に交通事故で亡くなられた方の約6割が頭部に致命傷を負っており、ヘルメットを着用していなかった方の致死率は、ヘルメットを着用していた方に比べて1.6倍以上になるとされています。

自転車は、道路交通法では軽車両に位置付けられており、道路を通行する際は「車」として、交通ルールを順守し、安全運転を心掛けましょう。

一人一人がお互いを思いやり、交通ルールやマナーを守り、皆で交通事故のない安全で安心なまちにしていきたいと思います。

広がれ! はっぴー・ぼうさい 第24回 **危機管理課(1階)** ☎561-2325、☎561-6852

最終回 草津の防災力、どんどん高めていきましょう **関西大学 社会安全学部 近藤ゼミ**

このコラムは、えふえむ草津でお届けしている防災番組『Happy BOUSAI』シリーズと連動するかたちで筆を進めてきました。おかげさまで、番組は2017年に産声を上げてから6年の時を超え、2023年3月時点で通算140回を迎えるほどに成長しました。たくさんのご支援をいただき、誠にありがとうございます。

今、全国のコミュニティFM放送局で、地域の防災力を高めるための取り組みが行われています。地域のメディアだからこそ、地域と向き合い、熱のこもった挑戦ができます。そうした中であって、えふえむ草津のこの番組は、すでに“ご長寿番組”と呼べるような領域に入ってきました。これまでに出演したゼミ生は、50人ほどになります。それぞれがそれぞれの夢を胸に抱いて、巣立っていきました。

しかし、実績に甘んじているわけにはいきません。私たちの真なる目標は、地域の防災力を向上させて、実際に災害が来たときに、できる限り被害を減らすことにあります。さらに言えば、被災した後に草津市を

いち早く復興させるために、助け合う力を今のうちに蓄えておく、そんな長期展望さえ持っています。“攻めの姿勢”で準備しているのです。

ただし、やはり防災・減災の営みは、生活の中では、程よく塩梅するのがいいでしょう。防災・減災が“主役級”になるような暮らしは味気ない。素っ気ない。真面目過ぎる。面白くありません。だから、防災・減災に取り組むこと自体が、刺激的で、楽しくハッピーであるように工夫すると良いと思います。結果だけを追い求めるのではなく、過程も全て大事です。プロセスの中にも幸せが見つかるような歩み方をするのです。

これまでこのコラムを読み続けてくださり、ありがとうございます。文章でのメッセージの発信は、これで一区切りとしますが、今後とも、えふえむ草津『Happy BOUSAI』シリーズを、どうぞよろしくお願ひします。

ラジオえふえむ草津 (FM78.5MHz) **Happy BOUSAI** 第1・3火曜日12:00~

コラム COLUMN

人権センター(大路二、キラリエ草津3階) ☎563-1177、☎563-7070 **差別のない明るいまちに**

『自分のしたこと、言ったことが、誰かに影響を与えている!』~仕事を通して、わたしたちと社会のつながりを考える~

このコーナーでは、人権が尊重された、誰もが住みよい明るいまちについて考えるコラムを掲載しています。今回は、わたしたちの仕事の視点から、人と社会のつながりについて考えます。

「仕事で大変なことはなんですか?」「やりがいはいくらですか?」

皆さんは、自身の仕事について、家族と話をすることがあるでしょうか?この話は以前、ある地域の研修会の場で発表されたものです。

タンクローリーの運転をするAさんは、ある日子どもから「お父さんの仕事で大変なことは何?」という質問をされました。聞くと、学校の宿題とことでした。

油を扱うので、一つ間違つと大きな事故につながる。だから給油するとき、運ぶときは細心の注意をしているよ。また車が大きいので、雨の日など、タンクの上にとるときは、すべつてけがをしないように気を付けているよ。



子どもにも分かるように、言葉を選びながら質問に答えました。すると今度は、「仕事のやりがいって何?」「子どもは聞きました。Aさんは答えに困りました。安全に、確実に油を運ぶため、一生懸命頑張っているけれど、正直、やりがいについてはあまり考えたことがありませんでした。迷つた揚げ句、これまでのことを思い返していたとき、ふとある光景が頭に浮かびました。

Aさんは2つ目の質問にこう答えました。

油はみんなの生活になくてはならないもの。お父さんの仕事は、それを確実に届ける仕事なんだよ。以前、被災した地域に灯油を運んだとき『遠い所まで本当にありがたう。これで何とか頑張れます。』と感謝されたことがあった。自分もみんなの生活の役に立てていると実感できて、とてもうれしかった。



「仕事について、子どもとこんなに話をしたことは初めてでしたが、我が子は真剣に聞いてくれて、とてもうれしかったです。これからは頑張ろうと思える瞬間でした。」Aさんはそのように語りました。

「自分のしたことが、誰かに影響を与えている」という実感を通して

桜の絵を専門に描くBさんは、これまで何回か個展を開催しています。ある日、続けて観に来てくれる女性に気が付き、思い切って声を掛けました。「毎回、四国から観に来させてもらっています。桜の絵を観るのが好きで…。あなたのこの絵を観ると元気をもらえます。」その女性の言葉を聞き、「自分が好きで描いた絵が、自分の知らないところで、誰かに元気を与えている。自分の絵が人の役に立っていることを知り、これからは頑張ろうと思えました。」Bさんはそのように話しました。

紹介した2つの事例は、誰

かから感謝の言葉を伝えられたり、誰かとつながりが持てたりしたとき「この仕事をしていて良かった」と感じる場面の一つであるといえます。

また、自分の仕事について考えることは、他の誰かの仕事について考えたり、尊重したりするきっかけにもなります。わたしたちの暮らしは、さまざまな仕事に支えられることで成り立っています。さまざまな仕事と自分たちの生活とのつながりを改めて考えたいものです。

3月は **自殺対策強化月間**です。今月号のコラムは「自分のしたこと、言ったことが、誰かに影響を与えている」というテーマでしたが、良い影響もあれば、悪い影響を与えてしまうこともあります。心無い発言や軽率な行動は、誰かを傷つけ、人のつながりを絶つてしまえばかりか、自身自身の価値を落としてしまうことにもつながります。他人を大切に、自分も大切にすることを、改めて考えてみてはいかがでしょうか。